

令和7年度事業報告

令和7年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

1. 英霊顕彰事業

国を守るために命を捧げ、今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者の慰霊・顕彰を行うことにより、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に正しく伝え、日本の平和と世界の恒久平和に貢献するため、次の事業を実施した。

(1) 戦跡慰霊巡拝

ア. 「土佐之塔」慰霊巡拝

沖縄や南方地域で散華された本県出身の英霊1万8千5百余柱が祀られている沖縄「土佐之塔」への慰霊巡拝は、終戦80年の節目の年であることから、2泊3日の旅程で参列者の一般募集を行った。11月15日(土)から17日(月)までの日程で、高知県子ども・福祉政策部長、県議会議長及び遺族など20人が参列した。

17日午前に挙行了した慰霊祭には、地元八重瀬町関係者など沖縄県から24名に参列いただき地元関係者等の協力により、例年どおり厳粛に慰霊祭を挙行できた。

【高知県からの参加人員 20名】

イ. 遺児慰霊友好親善事業等

遺児慰霊友好親善事業では遺族会報や県広報などにより参加者を募った。この結果、遺児1名が参加した。

(2) 英霊顕彰対策事業

県内市町村や各種団体が執り行う追悼式や慰霊祭等に本部役員等が参列するほか、メッセージや追悼電報を送付し、英霊の慰霊・追悼を行った。

【参列 28ヶ所、追悼電報等対応 7ヶ所】

さらに、高知県護国神社や靖国神社の例大祭等に協力し慰霊・追悼を行った。

(3) 団体参拝事業

国が8月15日に実施する全国戦没者追悼式へ参列する公費対象の遺族代表を県から依頼を受けて募集し、参加希望者の取りまとめを行い、県とともに遺族団を引率・参列し戦没者の追悼を行った。

- ・全国戦没者追悼式参列高知県遺族団

遺族 53名(子20名 兄弟姉妹1名 孫8名 ひ孫3名 甥姪9名 その他12名)
付添職員等 6名(県職員、遺族会職員等)

2. 広報啓発事業

遺族会報を年4回発行(4, 100部発行)し、国の援護行政、日本遺族会の動向や県遺族会及び県下各地域の遺族会の活動状況などの情報を提供することにより、英霊顕彰運動や遺族の処遇改善運動への協力と理解をいただくよう努めた。

また、日本遺族会発行の遺族通信を購読するとともに地区遺族会等に配布し、英霊顕彰運動等の普及を図った。

3. 遺族福祉向上事業

遺族会は、戦没者遺族の処遇改善、遺族の高齢化への対応など多くの課題を抱えており、課題解決へ向けて国等へ働きかける運動を行う一方、遺族運動や戦争の記憶を次世代へ継承していくための平和の語り部事業を行うなど、主に次のような事業を実施した。

(1) 遺族運動推進事業

英霊顕彰、遺族福祉向上を目的とする遺族会活動を推進するため、日本遺族会が主催する各種会議等で、全国の遺族会との意見交換や情報共有を行い、遺族の処遇改善についての要望活動を国会議員に対して行うとともに、平和の語り部事業にも取り組んだ。

(2) 老人福祉事業

例年、100歳を迎えた戦没者の妻を表彰しているが、該当者がいなかった。

(3) 遺族大会

5月11日に高知会館において、高知県遺族会遺族大会を平和の語り部事業研修会として開催し、68名が参加した。青年部が、平和の語り部事業について、これまでの活動を発表するとともに「戦地からの手紙」の朗読動画を上映した。

(4) 青年部事業

遺族運動や戦争の記憶を継承する次世代として、平和の語り部事業に積極的に取り組んだ。8月3日に「ナツボラ(学生の夏休みボランティア体験)」の制度を活用して、高知県護国神社の下境内にある慰霊碑等の清掃活動を実施。3月28日に高知市春野町で慰霊碑清掃を実施。戦地からの手紙の朗読動画作成などを行った。

また、活動企画メンバーによる会議等や青年部総会を開催し、活動方針等について協議等を行うとともに、日本遺族会が主催する研修会等で、全国の遺族会青年部との意見交換や情報共有を行った。